

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実践報告書

- 1 学校名：鳥取市立千代南中学校
- 2 実施日時：2019年11月9日（土）9：30 - 12：30
- 3 対象：1年生30名、保護者36名
- 4 派遣講師：網本 麻里 さん（車いすバスケットボール／北京大会）
- 5 授業内容：親子交流会におけるパラリンピアンへの講演及びパラスポーツ体験

2019年11月9日（土）に、鳥取市立千代南中学校にて、車いすバスケットボール女子日本代表の網本麻里氏を招聘して、講演や車いすバスケットボール体験が行われました。

講演では、網本氏が車いすバスケットボールを始めるまでの経緯や2020年の東京大会に向けた抱負等についてのお話がありました。先天的に足首が変形する病気を抱えていた網本氏でしたが、両親の教育方針で小学生のときからバスケットボールを始めとする様々なスポーツを行ってきました。しかし、中学2年生のときに足首の手術をして、バスケットボールを続けることができなくなりました。その時、母親の薦めで車いすバスケットボールに出会いました。さらに、中学3年生のときにオーストラリアで車いすバスケットボールをする機会を得た際に、コーチから「日本代表になれば、世界で車いすバスケットボールができる」と言われ、本格的に車いすバスケットボールにのめりこんでいきました。現在は2020年の東京大会に向けて練習を続けており、2008年の北京大会以来、パラリンピック競技大会への出場を逃している日本代表を応援してほしい、とメッセージを送られました。

続いて、網本氏のデモンストレーションが行われました。網本氏が車いすに乗って、ディフェンスをしているバスケットボール部の生徒をドリブルでかわしてシュートを決めると、見ている生徒や保護者から歓声が上がっていました。

続いて、車いすバスケットボールのルール説明と競技用車いすの試乗体験が行われました。ルール説明では、ドリブルの仕方やクラス分け等についての説明がありました。車いすの試乗では、車いすバスケットボール用の車いすは機動性が高いため、生徒は両手でバランスよく力を入れてこぐことができずに、真っ直ぐ進むのが困難な様子が見られました。また、親子で行った車いす競走では、生徒に負けないように一生懸命車いすをこぐ保護者の様子も見られました。10分の休憩の後、車いすバスケットボールのゲームが行われました。最初は、生徒対保護者でゲームが行われました。車いすを真っ直ぐこぐのだけでも大変なうえに、動きながらボールをパスしたりキャッチしたりするのはとても難しく、何とかゴールの近くまでボールを運んでもシュートを打つのはさらに難しい様子でした。保護者の方も生徒に負けじと、パスカットをしてシュートまでいくことができました。最後に、網本氏と生徒チームの対戦も行われました。網本氏の素早い動きに翻弄されながらも、一生懸命車いすをこいでくらくらく生徒の様子が見られました。

6 実践の様子



網本 麻里 氏



講演の様子



生徒への車いすの操作方法の指導



車いす操作の練習



保護者への車いす操作の指導



親子で車いす競走



車いすバスケ体験①



車いすバスケ体験②